

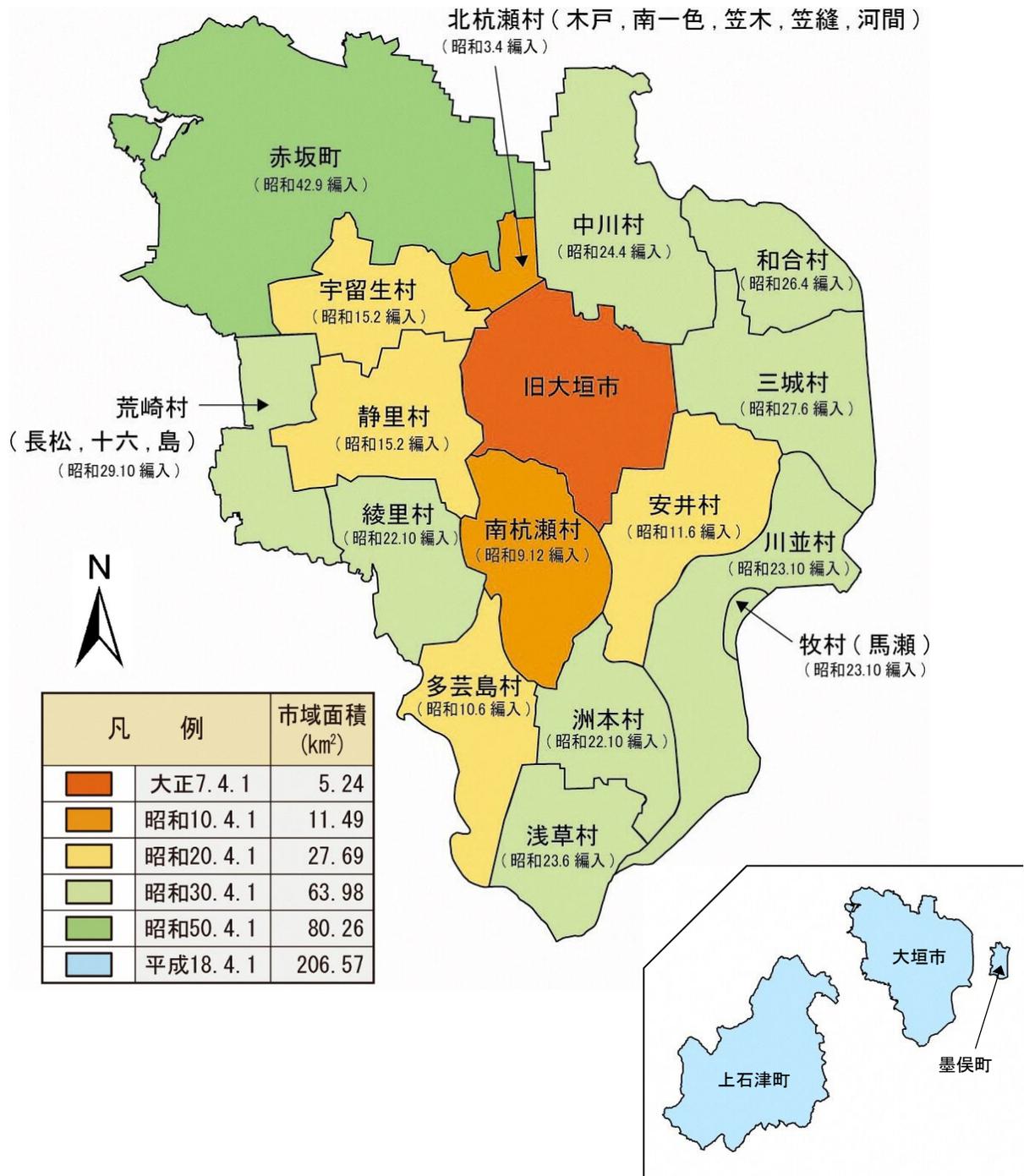
第2章 都市の沿革

2-1 都市の沿革

(1) 市域の変遷

大垣地域は大正7年の市制施行後、周辺16町村を編入し、さらに平成18年に上石津町及び墨侯町を編入して、現在の市域を形成しました。

【市域の変遷（旧市町村界）】

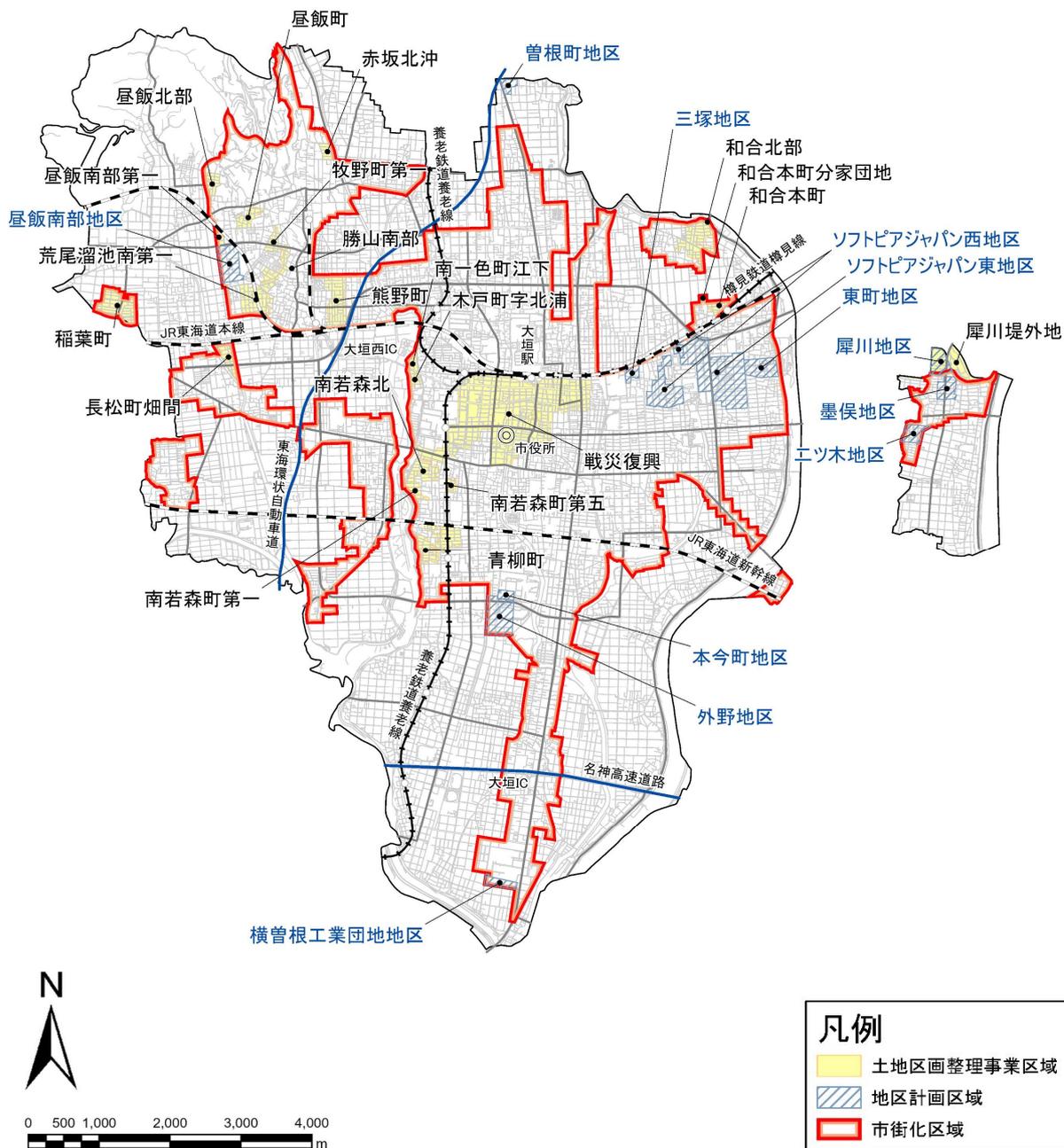


(2) 市街地形成の経緯

本市中心部（中心市街地及びその周辺部）は、戦災復興の土地区画整理事業により整理された市街地となっており、市街化区域の外縁部においても、土地区画整理事業の施行や地区計画の区域の指定により、良好な市街地の形成が図られています。

また、合併した墨俣地区は、市街化区域において市街地が形成されており、犀川地区では土地区画整理事業が施行され、新たな市街地が形成されています。

【土地区画整理事業及び地区計画の区域】

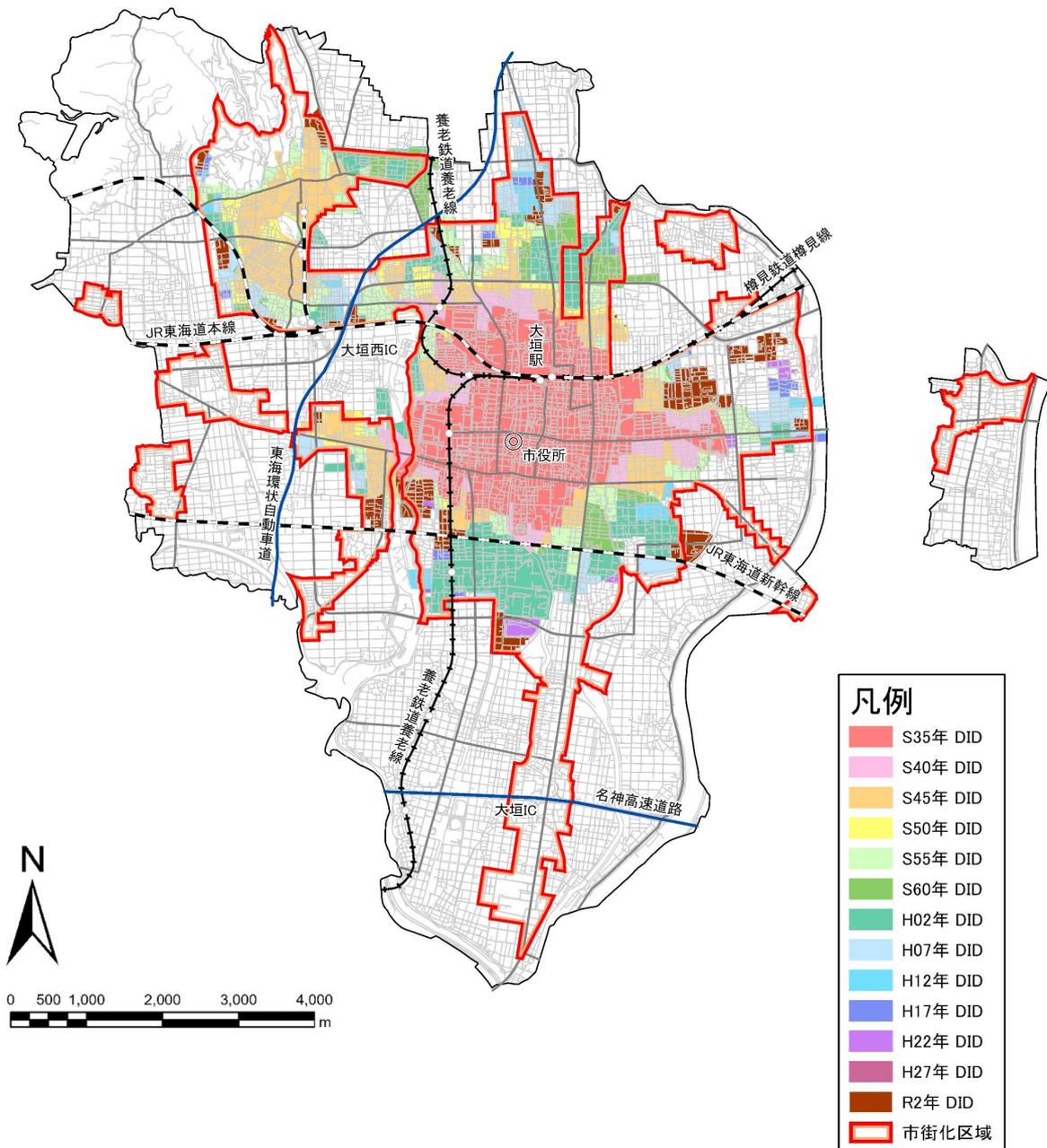


(3) DID (人口集中地区) ※の経緯

国勢調査による DID (人口集中地区) は、昭和 35 年では本市中心部のみでしたが、その後周辺部に拡大し、現在の市街地が形成されています。

一方、赤坂地区は、昭和 42 年に編入され、昭和 45 年に単独の DID が形成されており、自立した生活圏を形成しています。

【DID の変遷 [昭和 35 年～令和 2 年]】



資料：国勢調査

※人口密度が 4,000 人/km²以上の基本単位区が互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区

(4) 都市の沿革の視点からみた目指すべき方向性

前項までの内容を踏まえ、都市の沿革の視点からみた目指すべき方向性は、次のとおりです。

現状の整理
<ul style="list-style-type: none">・ DID は、本市中心部から周辺部に拡大しています。・ 赤坂地区は単独の DID を有し、自立した生活圏を形成しています。・ 墨俣地区は飛び地で、自立した生活圏を形成しています。



目指すべき方向性
<ul style="list-style-type: none">➤ 本市中心部、赤坂地区、墨俣地区ともに旧宿場町として発展した歴史もあり、そうした価値も含め都市や地域の生活拠点として維持・再生します。